

[GRAPEVINE]

第48回 ASEV年次大会参加記1  
ASEV年次大会の概要報告

ASEV 日本ブドウ・ワイン学会 会長 平山 史郎

第48回親学会はサン・ディエゴのコンベンション・センターで6月30日から7月2日に開催された。今回、大会への派遣団結成を呼びかけたところ、総勢20名の参加があり、1991年以来の親学会団体参加が実現した。年次大会に先立ち、ナパのワイナリー見学、Zinfandel Symposiumがあったが、別に詳しい報告があるので参照していただきたい。

年次大会は7月1日8時30分より、新会長 Ms. Diane Kenworthy の歓迎の挨拶があり、ワイン醸造とブドウ栽培のジョイント・セッションからスタートした。口頭発表はジョイント・セッションが6題、栽培関係が12題、醸造関係は微生物関係も含め19題であった。ポスター発表は栽培関係が21題、醸造関係が19題であった。

日本からは、ブドウ栽培関係で岡山大学・岡本先生からブドウの根域制限栽培について、醸造関係でメルシャン・佐藤氏が *Debaryomyces* と *Saccharomyces* の細胞融合株によるワインの醸造に関する口頭発表を行った。ポスター発表では、醸造関係で山梨大学・高柳先生がメルロー・ワインにおけるペチクナーゼ処理による色素パラメーターに及ぼす影響、山梨大学・柳田先生が赤ワイン醸造工程から分離した MLF 菌の同定について発表し、栽培関係では国税庁醸造研究所の後藤先生がブドウ DNA の RAPD および AFLP 分析について発表した。各発表には活発な質疑応答があり、発表者は同じ研究分野の親学会会員の知己を得、研究テーマについての議論を通し、多くの収穫があったようである。

特別講演は7月1日に、Honorary Research Lecture として UC Davis をリタイアした Dr. Ralph Kunkee が MLF に関する講演をおこない、7月2日には Merit Award 受賞者の Cornell 大学名誉教授 Dr. Nelson Shalis の講演があった。Dr. Nelson Shalis はブドウの代表的な仕立て方、GDC システムの考案者として有名であるが、高齢になってからの受賞がよほど嬉しかったらしく、感涙にむせびながらの講演であった。



会場のメイン入り口。

ブドウ栽培・ワイン醸造関係の展示会も会期中ポスター掲示と同じ会場で、約140の業者の参加で開催されており、栽培・醸造関係の機械・容器や分析機器の展示があった。ここではコルク、醸造用樽、分析キット、ブドウ苗木、醸造用酵母など、業界のトレンド的な情報を得るのに有用であり、年次大会のもう一つの

Japan Chapter Meeting Annual Meeting  
November 21 - 23, 1997  
Okayama University, Okayama, Japan

Pacific Northwest Chapter Meeting

岡山大会の開催についても大きく紹介されていた。

目玉となっている。

今回の派遣団によるワイナリー訪問と年次大会参加は、一人の病人も事故者もなく、無事有意義に終了することができた。これは団体参加をオーガナイズして頂きました山梨大学・横塚先生、レイモンド・ワイナリーの島山氏、マーカム・ヴィニヤーズの山口氏、旅行の間大変お世話になったアメニティ・トラベル添乗員の上杉和香さん、その他の関係者および参加者全員のご協力の賜であります。ここに、紙上をお借りし、厚く御礼申し上げます。

---